

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公 開 特 許 公 報(A)

(11) 特許出願公開番号
特開2005-348893
(P2005-348893A)

(43) 公開日 平成17年12月22日(2005. 12. 22)

(51) Int.Cl.⁷
A 6 1 B 5/00
A 6 1 B 10/00

F I
A 6 1 B 5/00 1 O 1 E
A 6 1 B 10/00 H

テーマコード (参考)
4 C 1 1 7

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号	特願2004-171694 (P2004-171694)	(71) 出願人	398059231
(22) 出願日	平成16年6月9日 (2004. 6. 9)		西村 泰治
			三重県尾鷲市栄町 5 - 2 4
		(74) 代理人	100095278
			弁理士 犬飼 達彦
		(72) 発明者	西村 泰治
			三重県尾鷲市栄町 5 - 2 4
		F ターム (参考)	4C117 XA05 XB04 XB12 XC11 XC19
			XD06 XD36 XE16 XE23 XE52
			XJ45

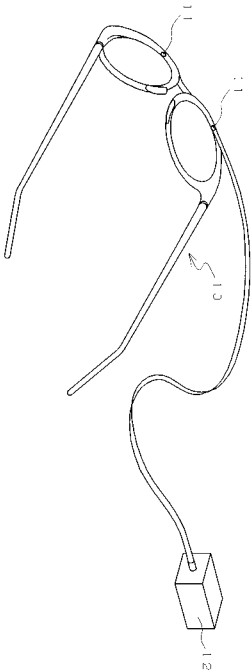
(54) 【発明の名称】 脳梗塞の予知方法

(57) 【要約】

【課題】 本発明は、脳梗塞の簡便な予知方法を提供する。

【解決手段】 本発明は、身体の半身における各々の表面温度を測定し、それらの表面温度差が予め設定されている温度差以上になると警報を発する。

【選択図】 図 1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

身体の半身において、各々の表面温度を測定し、それらの表面温度差が予め設定されている温度差以上になると警報を発する脳梗塞の予知方法。

【請求項 2】

表面温度の測定位置はまぶたであることを特徴とする請求項 1 の脳梗塞の予知方法。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、脳梗塞の予知方法に関する。

10

【背景技術】

【0002】

従来、脳梗塞は夜間におきやすく、その発病に気づき難いのが一般的である。この脳梗塞は、一般に、左脳と右脳の両方が、同時になるのではなく、何れか一方になる。そして、その症状は、個人差があり一概に言えないが、半身麻痺症状となって表れる。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

前記脳梗塞は、寝ている間での発見は困難であり、発見されたときには手遅れであるという状態が生じ、早期発見が望まれている。

20

そこで、本発明は、脳梗塞の早期発見を可能にする方法を提供するものである。

【課題を解決するための手段】

【0004】

請求項 1 の脳梗塞の予知方法は、身体の左右半身において、各々の表面温度を測定し、それらの表面温度差が予め設定されている温度差以上になると警報を発するものである。

脳梗塞が生ずると、左右何れか一方の身体が麻痺し、表面温度差となって表れるので、その温度差を測定することによって予知できる。

又、請求項 2 の脳梗塞の予知方法は、左右のまぶたの表面温度を測定するものであり、その表面温度の差が表れ易い箇所である。

【発明の効果】

30

【0005】

請求項 1、2 の脳梗塞の予知方法は、表面温度差をもって予知するという簡便な方法である。

【発明を実施するための最良の形態】

【0006】

本発明を図 1、図 2 を参照して説明する。

脳梗塞は、全身麻痺という症状になるのは希であり、左右何れか一方の半身麻痺の症状となる。そして、その症状によって、肉体が不動状態になり、表面温度の相違となって表れる。

例えば、脳梗塞になると、左右何れか一方の瞬きがなくなり、その結果、瞬きをする方としない方とでは、表面温度が相違するという現象となる。

40

【0007】

そこで、双方のまぶた付近の表面温度を測定するために、例えば、図 1 に示すように、メガネ 10 に表面温度を測定する検出子（サーモグラフィーによる検出器）11、11 を付設し、そのメガネを掛けた状態で就寝する。或は、図 2 に示すように、サーミスタの検出子 13 等を粘着材等でアイマスク 15 に付設して、そのアイマスク 15 を付けて就寝することによって、サーミスタの検出子が直接マブタに接触して表面温度を測定する。

【0008】

尚、前記表面温度を測定する検出器には、前記したサーモグラフィーのように間接的な方法によって表面温度を測定する方法の他に、直接、皮膚に触れて温度を測定するサーミ

50

スタによる方法があり、それらの測定方法は、よく知られているので、ここでは説明しない。又、前記検出子 11、13 からの信号は、ケーブル等を介して、警報等を発する装置 12 に伝達され、前記した様に、予め設定の温度との比較で警報等を発する。

【0009】

そして、そのメガネ 10 を掛けた状態で就寝すると、常時、双方のまぶた付近の表面温度は、装置 12 で測定される。この測定された温度差を検出することによって、その温度差が予め設定された温度差以上になったとき、警報を発することによって、脳梗塞が発生したことが容易に判る。

尚、前記温度差は、予め、正常な状態と脳梗塞になったときの状態における表面温度を測定して、データ化しておく。

10

【0010】

尚、前記では、まぶたの表面温度差をメガネに付設の温度検出器で測定したが、直接、検出器を身体に接触する方式での測定方法であってもよく、例えば、足首の温度を測定するには、直接、温度計を接触させて、その温度計を布地で巻付けて固定する方法であってもよい。

【0011】

又、前記まぶたの他に、足首等、脳梗塞によって表面温度差が出る箇所であれば、双方において同じ条件での測定が可能であるなら何れであってもよい。即ち、この足首を使用するのは、双方の足首が就寝中同じ条件下で測定可能であるからであり、手首等は、布団から出しているときと中に入れていたのでは、相違するの好ましくない。

20

以上のように、本発明は脳梗塞による半身麻痺に基づいて、表面温度が相違する現象を捉えて予知するものであることから、同じ条件下で、その相違する箇所を測定すれば、身体は何れであってもよい。

尚、前記脳梗塞の予知は表面温度計を用いるものであるが、血流計を用いて、その血流の相違でもって予知を行ってもよい。

【図面の簡単な説明】

【0012】

【図 1】メガネを使用してまぶたの表面温度を測定する図である。

【図 2】アイマスクを使用してまぶたの表面温度を測定する図である。

【符号の説明】

30

【0013】

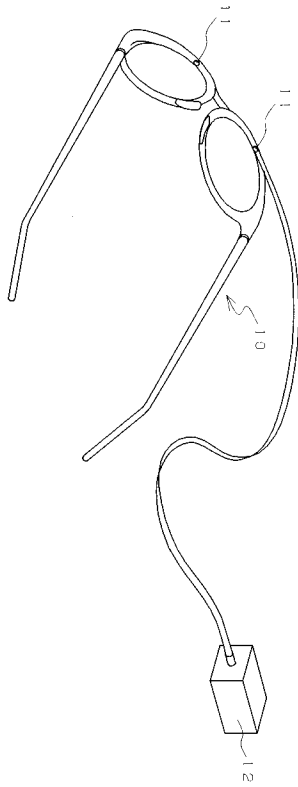
10 メガネ

11 検出子

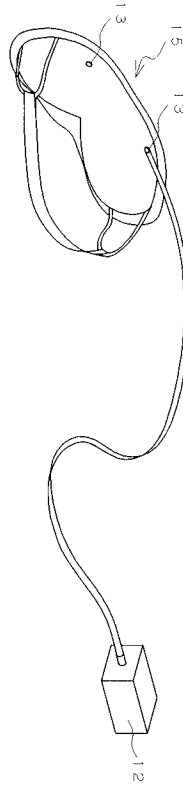
13 検出子

15 アイマスク

【図 1】



【図 2】



专利名称(译)	脑梗塞的预测方法		
公开(公告)号	JP2005348893A	公开(公告)日	2005-12-22
申请号	JP2004171694	申请日	2004-06-09
[标]申请(专利权)人(译)	太极西村		
申请(专利权)人(译)	太极西村		
[标]发明人	西村泰治		
发明人	西村 泰治		
IPC分类号	A61B5/01 A61B5/00 A61B10/00		
FI分类号	A61B5/00.101.E A61B10/00.H A61B5/01.100		
F-TERM分类号	4C117/XA05 4C117/XB04 4C117/XB12 4C117/XC11 4C117/XC19 4C117/XD06 4C117/XD36 4C117/XE16 4C117/XE23 4C117/XE52 4C117/XJ45		
代理人(译)	犬饲龙彦		
外部链接	Espacenet		

摘要(译)

要解决的问题：提供一种预测脑梗塞的简单方法。 根据本发明，测量身体的每半部分的表面温度，并且当表面温度差超过预设温度差时发出警报。 [选型图]图1

